

「地方の活性化とユビキタスネット社会に関する懇談会」への提案

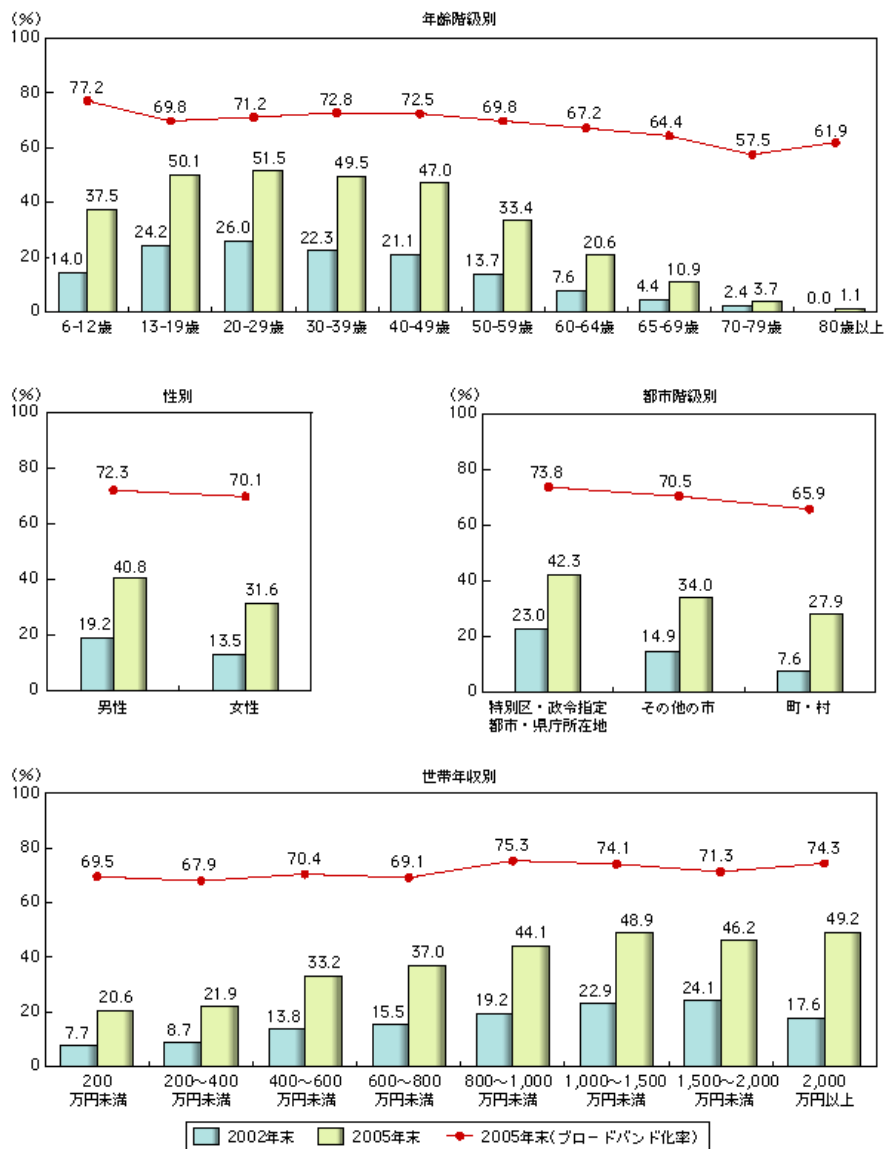
老テク研究会 近藤則子 2007年1月22日

使いこなせればICTは、移動や外出の困難な高齢者・障害者・育児や介護で外出の難しい主婦、そして都会から遠くに住んでいる人たちにとって、自宅で多彩なサービスを利用でき、支援技術が身体や視聴覚の障害を補完してくれる、大きな助けとなる便利な道具です。

しかし組織を離れた高齢者の多くは、新しい情報通信技術の活用方法を学習する機会が少なく、その恩恵を知らない、使えない人が多いのが現実です。その数約2千万人。

老テク研究会の調査(2006)で使えない理由のトップはパソコンの操作が難しいから。

表1 ブロードバンド普及率 平成17年通信利用動向調査 総務省



(出典)総務省「平成17年通信利用動向調査(世帯編)」

拡がる世代間、高齢者個人間の情報格差

65歳以上の消費費出は、2000年から15年間で倍増するとの予測があります。高齢者の情報通信消費は成長市場と予測されていますが、格差は大きくなるばかり。

65歳以上の高齢者における消費項目別推計			
	年平均の伸び率	2000年予測値	2015年推計値
情報通信	5.6%	1.1兆円	2.4兆円
不動産・住宅設備	5.4%	2.2兆円	4.9兆円
出版	5.2%	1.4兆円	1.4兆円
教育・医療サービス	5.0%	2.5兆円	5.3兆円
自動車・関連品	4.8%	0.9兆円	1.9兆円
趣味・スポーツ用品	4.4%	0.5兆円	1.0兆円
外食・各種サービス	4.4%	2.1兆円	4.0兆円

シニアマーケット規模推計調査より 2000年 電通、社会工学研究所

高齢者や障害者、家庭の女性達こそネット社会の主役。といい続けて15年。

老テク研究会（大島真理子代表）は、電子情報通信学会ICS研究会（塚田啓一委員長）に利用者として参加した、育児や介護に必要な地域情報不足に困った主婦2名が、企業や技術者にもっと使いやすい情報通信端末や情報サービスを提案したいと考え、1992年に発足したボランティア研究会。家庭や地域の生活者がICTを使えないのでは、もったいない、なんとかしようという、“おせっかいな会”です。

使っていない人、特に高齢者が使えるようになると、地方は活性化します。

全国のシニアパソコンボランティア活動や団体間の相互交流の支援を行って12年。

電腦七夕祭り、電腦雑祭りなど異なる地域や世代を結び、いつでも、誰でも、どこからでも参加できるさまざまなネットイベントを企画し、高齢者へのICT普及の情報源となるべくおせっかいな友達の輪を広げています。

類は友を呼んで、同じような活動をしているおせっかいは、世界各地にいます。

Mover and Shaker Network（MSNと仲間内では呼んでいます）

高齢者がICTを使うきっかけ、それは親しい人からの誘い（おせっかい）

高齢者には可愛い孫世代との交流を促進できる、楽しい企画が好評です。

キーワードは エンジョイ！

ユビキタスネットを使った活動例 大人気！ 電腦雛祭り（１９９６－ほぼ毎年開催）

各地のお雛さまをネットでみんなと一っしょに見て、楽しみましょう！



作者 高倉幸江さん（６５）

高倉さんのオートシェイプ（図形描画機能）だけで描くPCお絵かき講座はシニアに大好評
２００７年は１月から３月までオートシェイプアートコンテストを開催中。
３月－４月に日韓電腦雛祭りを開催予定。

写真１ 左下 携帯電話で京都のお雛様をみる大島さんとお母さん（８６）

写真２ 右下 京都国立博物館収蔵江戸時代の御殿雛の映像をデジタルテレビの大画面に。
気仙沼市の子供華道教室、新宿郵便局、松本市の博物館と双方向ネット中継。



写真３ 左上新宿郵便局

写真４ 右上 子供たちとパソコンで作った紙の雛人形

交流に必要な機材や環境、場所、手作りの雛人形を郵便局と企業や友人からお借りしたので経費は限りなくゼロ。 高齢者は雛祭りレポーターや子供たちへのパソコン指導にと大活躍。

主催 老テク研究会 京都金曜サロン 松本シニアネットクラブ いちえ会 気仙沼市伝統文化教室

協力 新宿中央郵便局 NTTドコモ NTTドコモ東北 ビックカメラ エーティーマーケット

パナソニックモバイルコミュニケーションズ さくらコミュニケーションズ 服部真湖 ICS研究会

京都国立博物館 松本市博物館 シニアおしゃれクラブ シニアパソコンサポートせたがや（順不同）

2006年のヒット企画はシニアムービー塾

DMD (Digital Movie Director) を使ってアニメ映画をつくる講座がシニアに大好評。

DMDは東京大学安田・青木研究室で研究・開発中の映像自動生成ソフト。

青木先生は全国各地でシニアムービー塾を開催してほしいとひっぱりだこの人気。



写真5 簡単にアニメ映画が作れる！



写真6 優貴ちゃん(7)と若宮さん(70)で共同制作中！



青木先生から優秀作に東大饅頭進呈

写真7シニアムービー塾(東京大学先端研)のようすは、翌朝、NHKおはよう日本で放送。

東京大学国際・産学共同研究センター・先端科学技術研究センター安田・青木研究室

<http://www.mpeg.rcast.u-tokyo.ac.jp/index.html>

ネットとリアルで交流してきたメロウ倶楽部と韓国元老坊との日韓交流会のようす

ビデオ 日韓シニアデジタルメディア交流会(2分)

協力 メロウ倶楽部 <http://www.mellow-club.org/>

提案1 障害者の在宅就労（テレワーク）への支援を！

東京のネット企業で長野県の身体障害者や精神障害者、知的障害者を雇用し、サイトチェック（目視によるサイト内監視）を遠隔共同作業で行うテレワークが始まりました。昨年末の支援シンポジウムには、首都圏だけでなく、広島、滋賀、静岡、宮城、長野、大阪など全国から82名もの参加者がありました。当日夕方のNHKニュースで放送。障害のある人たちがICTを活用して自宅で働けるようになるには、地域での学習機会の確保や第3者の支援（プロのコーディネーター）が重要です。

第1回 高齢者・障害者のICTを活用した社会参加を考えるシンポジウム

「ネット企業における障害者の在宅就労を考える」より報告

2006年12月9日 会場：CIAJ 主催：NPO法人SOHO未来塾、老テク研究会

「新しい良質な労働力の発見！」と喜ぶネット企業

障害者との遠隔共同作業を導入したネット企業（ライブドア）は「新しい優秀な労働力の発見！」と喜び、長野県の障害者は「自分達に理想的な仕事と職場に出会えた！」と喜んでいますが、導入を検討したい、というネット企業からの問い合わせも増えています。

普及に必要な企業経営者への啓発、テレワークコーディネーターの養成

- 1 企業と障害者就労支援組織（地方公共団体やNPO法人）に対して、障害者の就労支援の情報交換や交流ができるようなセミナー開催を奨励してください。
特に企業経営者にそのメリットや、注意点を理解してもらうことが重要です。
- 2 テレワークコーディネーター養成講座や認定制度を検討してください。
地方の障害者が、遠隔地の企業に雇用されるには、第3者の支援が不可欠です。
地方には経験を積んだ高齢者や介護で退職した女性等、就労意欲やプロ意識の高い人材がいます。プロのコーディネーターを認定できるような、就労支援制度が必要です。



写真8：長野県のNPO法人SOHO未来塾の会員の活動、研修のようす
SOHO未来塾 <http://www.sohomiraijuku.jp/>

提案2 町内会・自治会・市民サークルの情報化への支援を！

育児や介護を支援できるのはご近所。しかし現代では近所つきあいが少なく、世代間で育児の価値観も異なるため、気軽に育児を助けあうのは簡単ではありません。

行政と連携する町内会等の自主防災組織や市民サークルが、ネットを活用して簡単に情報発信しやすい環境を政府と民間とでつくり、平時はそれぞれの地域活動で育児・介護支援ネットとして利用できるようにしておけば、大規模災害時の情報伝達の強力な基盤になります。

どの地域でもやっている防災訓練をきっかけにICTに関心をもってもらい、災害時のネットによる情報伝達・共有を担ってくれる情報ボランティアのネットワーク化が急務です。

参考1 町内会サイトは有益という若者

町内会サイトの主なターゲットは地域活動に参加していない働き盛りの男性や若者。

町内会サイトの実態と課題 東京大学都市工学科武藤弘氏の論文より 2003年

武藤氏は電子町内会の今後はmixiなどSNSの活用に注目。

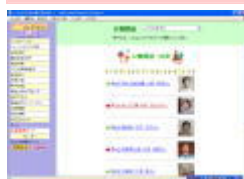
出典 http://members.ld.infoseek.co.jp/hmuto/grd/grd_presen.ppt

参考2 町内会サイトは有益という自治体 岡山市

2002年に日本初の電子町内会が発足した岡山市。2005年には電子町内会連絡協議会が発足。現在、参加町内会57、参加会員約3,500名。地域コミュニティの活性化と、明るく安全で安心なまちづくりを目指しています。

電子町内会ホームページより <http://townweb.e-okayamacity.jp/d-chounai/>

海吉出村町内会「人物探訪」



町内会にお住まいの方々をインタビューを交え紹介しています。多彩で魅力あふれる楽しいページです。

中島町内会「中島の歴史」



中島城址、百間川とのかかわりなど、近世までの歴史書いている、興味深い内容のページです。

芳賀団地南町内会「環境衛生」



スプレー缶を捨てる時の注意を掲載しています。1ページですが、危険性をわかりやすく紹介してあります。

湊町内会「トピックス」



湊町内会のトピックスは、とても丁寧で、わかりやすく、温かみのある編集で、楽しませてくれます。

資料提供 岡山市

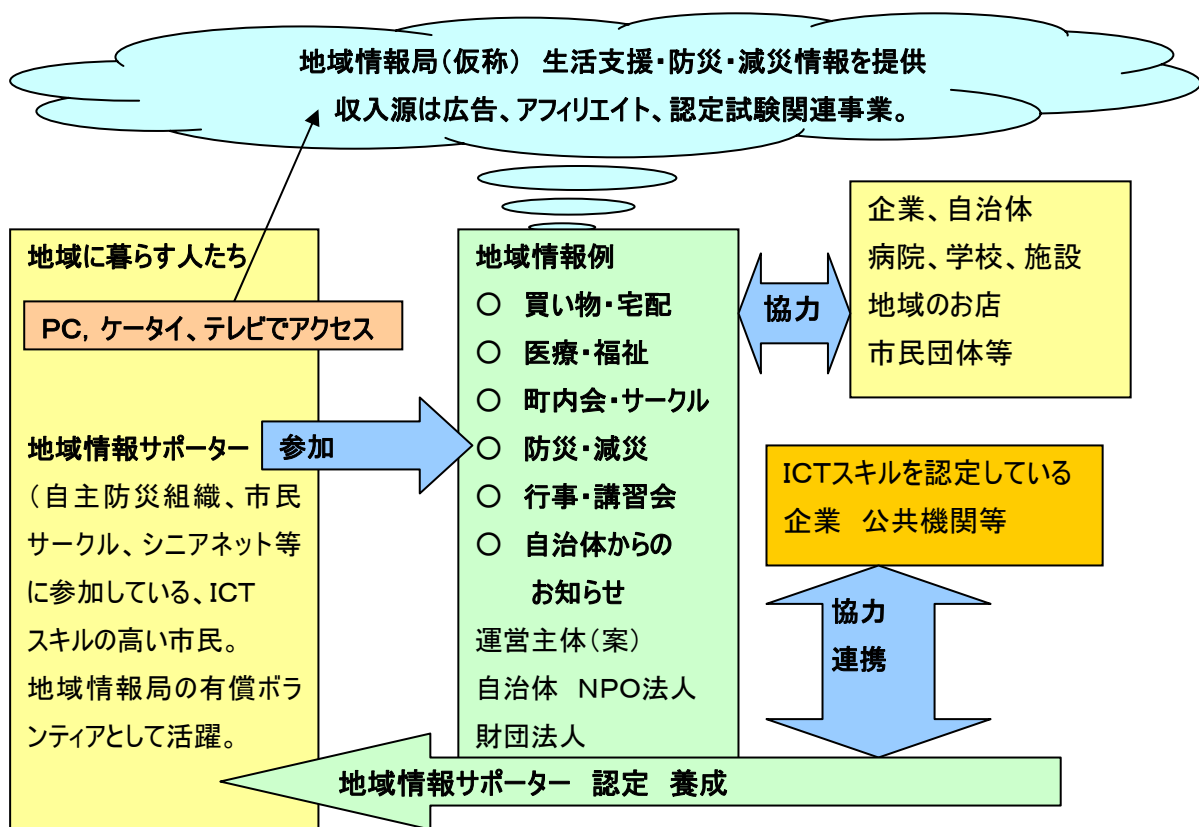
参考3 パソコン教室が地域の情報交流拠点 — 埼玉県本庄市児玉町のパソコン教室
 家業の製造業が衰退。2代目が10年前、田舎で始めた町のパソコン教室は高齢者や女性たちに大人気。80歳で入門した元校長先生は86歳の今、自宅でパソコン塾を開始。地元で育てた講師は10名に増え、在校生250人、のべ5000人にパソコン指導。役場のIT講習会では4500人を指導。地域住民の交流促進や人材養成、障害者施設への出張授業、パソコン販売、サポートも行う町の情報化の頼もしいエンジン。

パソコン塾 児玉教室 <http://www.kumagaya.or.jp/~azuma/>



写真9 左：デジカメピクニック 中央：地区IT講習会 右：八百屋さんみたいな教室受付
 PC教室受講生の田畑でとれた農作物や福祉作業所で育てたシクラメンなどを展示即売。

地域情報サポーターが活躍できる地域ポータルサイトがあると便利



提案3 地域情報サービスを充実させ、生活者むけICT講習会を実施しましょう！

2011年。新しいデジタルテレビの便利な機能を使えない高齢者は多数になると予想されます。2006年の老テク研究会の調査では、65歳以上100名の4割がすでにデジタルテレビを所有していますが、字幕放送、解説放送、地域情報、双方向情報サービスなどの機能を知っている人は半数。使っている方は1割以下でした。

パソコンだけではなく、電話、携帯電話、デジタルテレビの端末やサービス、ユビキタスネットの使い方を高齢者同士で教えあえるようなしくみができたらと考え、昨年からIT企業（NTTドコモ、マイクロソフト）やNPO法人、社会福祉協議会、町内会、老人会と協力して、高齢者や女性のための講習会や指導者、講師の養成、認定制度の検討をしています。



写真10 左 NPO法人COS下北沢のシニアケータイ教室 生徒は70代の女性
右 同じフロアで秋田県のお米や農作物の展示即売中 手前でケータイ講習中
NPO法人COSFA <http://cosfa.main.jp/>

仙台シニアネットクラブを応援してくださっている仙台市教育長の奥山恵美子氏は、シニアがネットを使える価値について次のようにコメントしてくださいました。

「高齢になって足腰が弱り、買い物に出かけられない高齢者が近い将来増えるのは確実です。仙台市内でさえ、歩いていける近所にお店のある地域ばかりではありません。ネットで日常生活に必要な買い物ができ、気軽に商品を配達してもらえれば、自宅で暮らし続けることができます。それは高齢者本人にも、家族や地域社会にとっても、歓迎すべきことです。一人暮らしの若い人や育児中の母親にも便利で助かりますよね。シニアネット活動に参加している仙台の高齢者は、とても元気で、いきいきとしています。いきいきと暮らすために、ネットを活用できることはこれからますます重要になるでしょう。せんだいメディアテークの仙台シニアネットクラブによるシニアや女性、子供むけパソコン講座は発足から5年目、いまだに高倍率の人気講座です。」

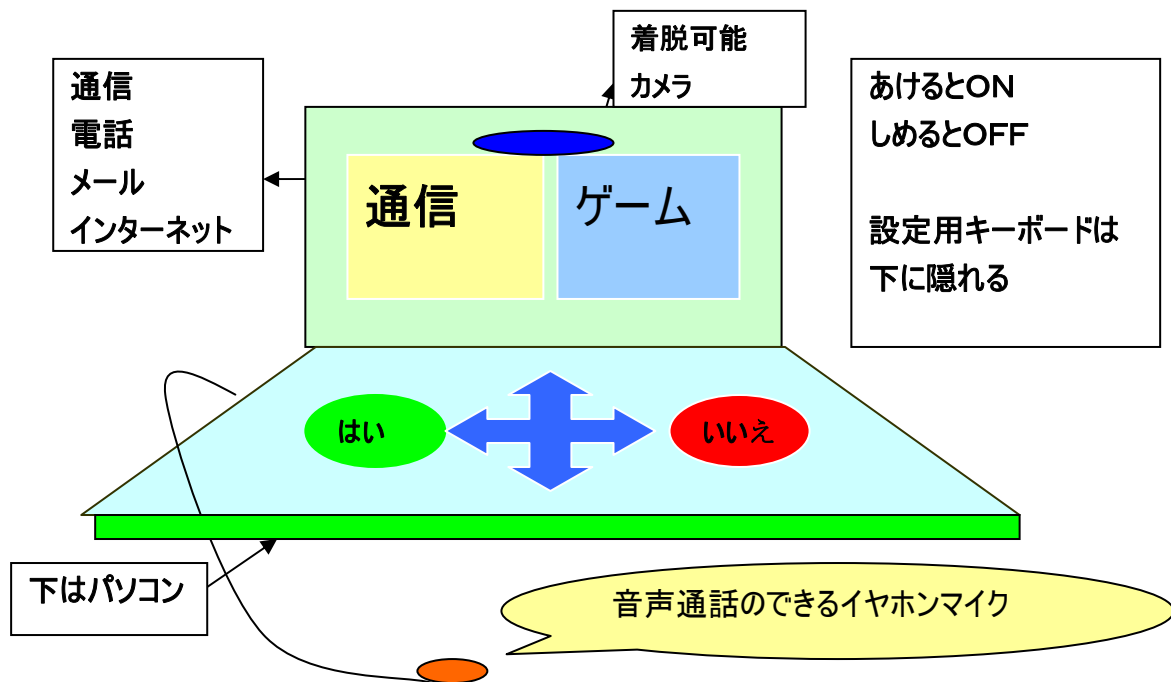
せんだいメディアテーク <http://www.smt.city.sendai.jp/>

利用者に使いやすい地域情報サービスをパソコン、携帯電話、デジタルテレビで提供し、誰もがそのサービスを使いこなせるよう地域でICT講習会を実施しましょう。パソコンボランティアの収入源となる地域情報サイトの創設、相互交流や活動支援講座を応援してください。

付録 あったらしいなの情報端末と利用者支援サービス

利用者のニーズ パソコンはボタンが多くて使えそうもないけれど、……、
メールを読みたい。IP電話で遠くの家族や友人と交流したい。
000のホームページを利用したい。
孫が好きなゲームでいっしょに遊びたいが、画面や文字もボタンも
小さくて見えにくいし、使いにくい。

端末 ノートパソコンくらい大きく、表面はニンテンドーDSみたいなパソコン
IP電話が使えるイヤホンマイクがついている。
ワイヤレス通信とゲーム機に使えるよう画面切り替えできる。
設定、登録用の通常のパソコンキーボードは下に隠れている。



利用支援サービス

設定利用支援サービスを実施してくれるところ（企業、団体、店舗等）から購入する。
購入時にメール、電話番号、利用したいホームページの登録を支援してもらい
ひとりひとりに必要な、情報サービスが利用できるよう、個別設定をしてもらえる。

無料で利用方法の講習を何回でも受けることができる。
希望すれば訪問指導をもらえる。